

文字と発音

解説

レッスンを始める前に、スワヒリ語の文字と発音について、簡単に見ておきましょう。



◆ 文字

スワヒリ語はローマ字のアルファベットで書き表わします。中には‘ng’のようにアポストロフィを他の文字とともに用いて1つの音を表わす文字列もあります。

▽ スワヒリ語の音を表わす文字

a	b	ch	d	dh	e
f	g	gh	h	i	j
k	l	m	n	ng'	ny
o	p	r	s	sh	t
th	u	v	w	y	z

◆ 発音

スワヒリ語の母音は5個、子音は25個です。まずは母音から見ていきましょう。

◇ 母音

母音は‘a’, ‘e’, ‘i’, ‘o’, ‘u’の5個です。

▽ スワヒリ語の母音 (5個)

a	b	ch	d	dh	e
f	g	gh	h	i	j
k	l	m	n	ng'	ny
o	p	r	s	sh	t
th	u	v	w	y	z

‘u’の発音に気をつけてください。日本語の「ウ」とは異なります。スワヒリ語の‘u’は唇を円くすぼめて発音します。

[練習]

- sasa 〈今〉
- wewe 〈あなた〉
- mimi 〈私〉
- popo 〈コウモリ〉
- kuku 〈ニワトリ〉

◇ 子音

続いて、子音を見ていきましょう。子音はこの 25 個です。ここでは四角で囲んだ音だけを見ていきましょう。その他の音は日本語や英語の発音と同様であるので、説明を省きます。

▽ スワヒリ語の子音 (25 個)

a	b	ch	d	dh	e
f	g	gh	h	i	j
k	l	m	n	ng'	ny
o	p	r	s	sh	t
th	u	v	w	y	z

まずは‘l’と‘r’の音からです。‘l’は舌先を上歯茎に付けて発音します。‘r’は舌を巻き舌状にして発音します。

[練習]

- kalamu 〈ペン〉
- karamu 〈パーティー〉

続いては‘th’と‘dh’の音です。これは英語の‘th’で表わされる語と同じ音です。英語の‘th’には「濁る音」と「濁らない音」の両方がありますね。例えば‘the’ (定冠詞)と‘think’〈考える〉の最初の音のようになります。しかしスワヒリ語では「濁る音」を‘dh’、「濁らない音」を‘th’と、区別して書き表わします。

[練習]

- thamini 〈評価する〉
- dhamini 〈保証する〉

次は‘shi’と‘si’の音です。まず、舌の位置に注意しながら「シャ・シュ・シェ・シヨ」と言ってみてください。この「シャ・シュ・シェ・シヨ」の舌の位置で「シ」を発音してみてください。これが‘shi’の音です。同じように、舌の位置に注意しながら「サ・ス・セ・ソ」と言ってみてください。この「サ・ス・セ・ソ」の舌の位置で「シ」を発音してみてください。これが‘si’の音です。日本語の「シ」は‘shi’に当たります。

[練習]

- shikio 〈取っ手〉
- sikio 〈耳〉

次は‘ny’と‘ni’の音です。舌の位置に注意しながら「ニャ・ニュ・ニェ・ニョ」と言ってみてください。この「ニャ・ニュ・ニェ・ニョ」の舌の位置で「ニ」を発音してみてください。これが‘ny’の音です。同じように、舌の位置に注意しながら「ナ・ヌ・ネ・ノ」と言ってみてください。この「ナ・ヌ・ネ・ノ」の舌の位置で「ニ」を発音してみてください。これが‘ni’の音です。日本語の「ニ」は‘ny’に当たります。

[練習]

- nyinyi 〈あなたたち〉
- nini 〈何〉

次は‘ji’と‘zi’の音です。日本語では区別しない音ですが、スワヒリ語では区別して発音します。舌の位置に注意しながら「ジャ・ジュ・ジェ・ジョ」と言ってみてください。この「ジャ・ジュ・ジェ・ジョ」の舌の位置で「ジ」を発音してみてください。これが‘ji’の音です。同じように、舌の位置に注意しながら「ザ・ズ・ゼ・ゾ」と言ってみてください。この「ザ・ズ・ゼ・ゾ」の舌の位置で「ジ」を発音してみてください。これが‘zi’の音です。

[練習]

- jiji 〈大都市〉
- zizi 〈家畜の囲い〉

次は‘ng’の音です。これは日本語で、例えば NHK のアナウンサーが「ばんぐみ」, 「おんがく」, 「かんごし」などと言う時に出てくるガ行の音です。

[練習]

- ng’ambo 〈向こう側〉
- ng’ombe 〈牛〉

次は‘gh’の音です。日本語では、語の始めに出てくるガ行音は喉の奥をしつかりと閉じて発音しますね。この‘gh’の音は、うがいをする時のように喉の奥を少し開けて発音します。

[練習]

- ghali 〈(値段が)高い〉
- ghorofa 〈階〉

次は‘hu’と‘hi’の音です。これらの音は日本語の「ハ・ヘ・ホ」と同様に、喉の奥から発音します。よって、日本語の「フ」と「ヒ」よりもやわらかい音になります。

[練習]

- huku 〈こちら〉
(→ 日本語と比較 : 「フク(服)」)
- hiyo 〈それ〉
(→ 日本語と比較 : 「ヒヨ(火よ)」)

最後は‘b’、‘d’、‘g’、‘j’の音についてです。これらは日本語のバ行、ダ行、ガ行、ジャ行の音とは異なる音です。しかし、きちんと発音できなくても、たとえ日本語風に発音しても、話に支障はありませんので、ここでは説明を省きます。

◇ 音の切れ目

次は、音の切れ目について触れておきます。スワヒリ語の音の切れ目には次の5つの型があります。それぞれ例とともに見ておきましょう。

- ((例))
- (1) **母音** **u**-a 〈花〉
- (2) **子音・母音** **y**·**e**-ye 〈彼〉
- (3) **子音・子音・母音** **s**·**w**·**a**-li 〈質問〉
- (4) **子音・子音・子音・母音** fu-**n**·**g**·**w**·**a** 〈閉められる〉
- (5) **鼻音** **m**-tu 〈人〉
- n**-chi 〈国〉

(1)～(4)の型は、母音の‘a’, ‘e’, ‘i’, ‘o’, ‘u’で音が切れますが、(5)の型は、‘m’や‘n’が単独で音の切れ目を作ります。ただし、‘m’と‘n’が単独で音の切れ目を作らない語もあります。単語ごとに覚えましょう。

◇ アクセント

続いてはアクセントについてです。スワヒリ語のアクセントは語の後ろから 2 番目の音に置かれます。

[練習]

- Najua Kiswahili. 〈スワヒリ語わかりますよ。〉
- ↓
- Na-ju-a Ki-swa-hi-li
- Nimefurahi kukuona. 〈どうぞよろしく。〉
- ↓
- Ni-me-fu-ra-hi ku-ku-o-na

◇ イントネーション

最後にイントネーションについて見ておきましょう。スワヒリ語の普通の文と疑問の文は、語形に違いはありませんが、イントネーションの微妙な差で違いが表わされます。疑問の文の方が普通の文に比べて、後ろから 2 番目の音がより高くなります。

[練習]

- Anajua Kiswahili. 〈彼はスワヒリ語がわかります。〉
- Anajua Kiswahili? 〈彼はスワヒリ語がわかりますか?〉

